

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目標とし、カンファレンスで話し合い共有、再認識したり、スタッフルーム、玄関に掲げ、日々のケアの中で実践できているかを振り返りながら意識づけしている。	「なじみの関係作り」「その人らしさを大切に」という理念を実現するために、具体的にどうしたらできるのかという事を職員で話し合い、できることから実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園や小学校を慰問し交流したり、近所の方と畑の作物を交換し合い、散歩の時など、笑顔で挨拶をかわしたり立ち話をしたりと、自然に顔なじみの関係ができています。	地域の方から畑の作物や柿、季節には鈴虫の差し入れがあったり、利用者の名前を覚えてくれ、散歩中に話しかけてくれるなど日常生活の中で行き来ができています。また、広い庭には近所の子供たちが遊びに来ることが多く、利用者は楽しくその風景を見ている。	利用者の作品を集め、文化祭のような行事を開催し、作品を見てもらう楽しみを作りたいと言われる。とても面白く興味のわくイベントなので、是非挑戦して頂きたいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー2級の実習を積極的に受け入れ、人材育成に努めている。その際は、入居者さんの不安や混乱につながらないよう職員が間に入ったり、またプライバシーにも配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果の取り組みについて、運営推進会議でも、報告、検討し、意見やアドバイスをもらい、今後のサービス向上につなげたり、協力をお願いしている。	2ヶ月に1回開催している。参加者は町内会長や近所の方、家族、職員などである。会議に参加することで、事業所の事を知って頂き、自分たちが出来る事があればお手伝いしますと言ってくれる人もおり、協力関係ができていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時、運営推進会議や面談時等の市の担当者が来訪時には、ホームの様子や入居者さんの暮らしぶりなどの現状を伝えることのできる良い機会となり、意見やアドバイスを求めるようにしている。	前回の目標達成計画に挙げられていた通り、事業所から行事や会議の案内をお知らせしているが、今のところ、欠席という返事が多い。福祉事務所や地域包括支援センターとは随時、連絡をし、相談を行っている。	今後も事業所の活動を知ってもらえるように、行政機関に対して積極的にお知らせをし、働きかけをお願いします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や門をオープンにした状態で、安全を確保しながらも、地域に開かれた自由な暮らしを支援する為に、入居者さんの心身の状態に配慮し、家族や近所の方にも、理解と協力を要請している。	玄関や門の施錠せず、自由に出入りできるようになっている。利用者の離苑もあるが、近所の方が顔を覚えていてくれ、職員がくるまで話をし、引き留めてくれることもあった。職員は身体拘束をしないケアに取り組むため、色々な対応方法を検討し、工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで具体的な実例や防止策を検討したり、身体拘束ゼロのガイドラインを学び、意識の向上を図り、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで、制度について学びの機会を得たり対象となりそうなケースでは、専門家に相談しアドバイスをいただけるような体制作りをし、支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に不安や疑問点には、時間をかけゆっくりと丁寧な説明を心がけている。リスク面や重度化、看取りへの対応についても安心や同意を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんの思いを最優先に考え、意思の疎通が難しい時でも共同決定できるよう支援しているご家族にも遠慮なく訪問でき、相談しやすい雰囲気でき、意見や要望にもできるだけ希望に沿える方向で前向きに検討している。	ご家族が来訪した時に最近の状況を伝え、意見や思いを聞くようにしている化粧が好きな利用者が家と同じようにお部屋で化粧ができるように化粧台や座布団などを用意してもらおう等、利用者が充実した生活ができるよう職員と家族で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に声をかけ、コミュニケーションを図り、何気ない会話の中からも職員の意見や思いを傾聴するとともに、月に1度のカンファレンスで全体の情報や意向を把握し、良い職場作りに働きかけている。	カンファレンスや日常的なコミュニケーションを通して、職員の意見や思いを把握している。管理者の温かい雰囲気や新人への気配り等もあり、職員は話がしやすい。また、職員同士の仲がよく、お互いの個性を生かして協力し介護を行っている。	同法人の事業所に研修や見学に行くなど、職員のスキルアップを図っている。今後も外部研修や勉強会など積極的に実施し、職員の見識を広げる機会を増やしていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の過労やストレスが集中しないよう気を配り、良好な人間関係を保ち、チームで助け協力し、また長所を発揮でき、やりがいや向上心につながるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験、実績に応じて事業所内外の研修の情報提供をし、受講参加を勧めたり、資格取得に向けた指導を行っている。また研修参加者がカンファレンスで内容を報告したり、報告書作成、全員で閲覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームでの実習を通して、自施設の見直し、振り返りにつなげている。お互いに良い刺激となり、意見、アドバイスをケアに取り入れ活かすことで、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族の双方に見学をお願いし、困っていることや要望など思いに向き合うようにしている。実際にホームの雰囲気を見ていただいたり、職員に触れ合い、できるだけゆっくり時間をかけ、徐々に安心や納得が得られるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現状をしっかりと把握し、困っていること、不安に感じている点など聞き取り、対応策について検討の上、わかりやすく説明、理解していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安に感じていることには、速やかに実行し、できないことにも前向きに検討を繰り返し、他サービスも視野に、支援策を案じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居さんと職員が共同生活の中で、助け合い協力できる関係に留意し、お互いこいたわり、感謝し合える良好な関係である。大先輩である入居者さんに生活の知恵、指針を教えていただく場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、家族の支えが何よりもかけがえのない大切な存在であることから協力を依頼し、近況報告や今後のケアの方針について相談し、方向性を共有し、一致していけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も今までの生活の中で、支えてくれたなじみの知人の方と交流出来たり、手紙や電話のやりとりが継続できるよう働きかけている。	利用者の自宅付近までドライブしたり、家族の協力により、お墓参りや行きつけの美容院へ行ったりすることもある。学校の先生をしていた方がおり、季節の変わり目に知人に手紙を書く習慣があり、一緒に郵便局へ出しに行くなど、お手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士が良好な関係を保てるよう調整役となったり、目配り気配りしている。また趣味や楽しみの共有を通して、さらに会話を楽しんだり、なじみの関係ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移り住まれた時は、これまでの暮らしぶり、注意点などの情報提供を行い、円滑な生活ができるよう連携を図っている。また機会を作り訪問したり、長くお付き合いしていただけるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の真意は何か？に寄り添い、望んでいることは何か？を把握するようにしている。日頃から表情や言動からくみ取れるような関わりを深め、ご本人の立場で検討している。	自分の思いをうまく言い表せない利用者も多い。職員は日常会話や関わりの中から、本人の思いや意向をくみ取るように努めている。家族にも面会時には近況報告をし、意見や思いを聞き、プランに反映するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、無理のない範囲で生活歴や暮らしぶりなどの情報収集し、ご本人らしさや居心地の良い暮らしの実現に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の有する能力を見極め、どのように声かけ援助する必要があるかに注視し、暮らしの中でできる可能性を広げ、増やしていけるように働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活の実現のため、ご本人や家族の思いや現状を敏感に察知し、カンファレンスでアセスメントやモニタリングなど話し合いをし、気付きをタイムリーに介護計画に反映し、実行している。	利用者の状態をよく観察し、変化や出来事など職員が気付いた事を連絡ノートやコミュニケーションノートに記入し、情報を共有しており、状態変化に合わせ迅速に介護計画を見直している。カンファレンス時に職員が意見交換を行い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に会話や気づき、普段と違った様子を記入することで、入居者さんの状況変化を把握し、情報共有でき、ケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状態、状況に応じて通院や送迎など柔軟に対応し、必要なサービスを臨機応変に提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やボランティアの方に会議や行事に、参加協力いただくことで、入居者と関わりができ、認知症の理解も深まっている。地域の中で、安心した生活が継続できるよう、つながりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医の方もおられるが、入居前からやご本人、ご家族の希望のかかりつけ医となっている。他科受診の際も、ご家族に同行、代行し、ホームでの様子や状態報告を行うなど、柔軟な対応をしている。	協力医院より、毎週かかりつけ医が訪問しているため、皮膚の状態や鼻水が出ているなど細かい事でも報告し、相談することができる。また希望があれば整体師が週3回訪問し、マッサージなど施行しており、利用者は痛みが和らぎ、動作が良くなる等とても喜ばれている。	かかりつけ医や整体師など外部からの訪問により、職員は新しい情報を得ると同時に、利用者は事業所以外の方と話す機会を持つことができる。これからも多方面からよい協力を得られるよう関係作りを行ってほしい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、体調変化を見逃さないように日頃の健康管理、医療面での相談、助言など連携している。異常があれば、早期発見し報告、適切な医療を早急に受けられるよう配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの暮らしや支援状況などの情報提供したり、定期的に面会している。環境変化に伴うダメージ、負担を考え、ホームでの対応可能な段階で、早期に退院・帰園できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を最優先に、ホームで出来得る最大限の支援方法について、チームで話し合ったり、ご本人、ご家族に説明し理解を得るようにしている。意向については、その都度、意思確認を行い、終末期を安心して過ごせるよう、医療、看護との連携も密に図りながら、取り組んでいる。	本人や家族の希望があれば、事業所でできる事を説明し、医師の協力のもと対応している。状態変化に伴い、随時家族に意思確認を行い、悔いの残らないよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に慌てず適切に行動できるよう対応マニュアルを作成し、周知徹底している。また、勉強会で看護職の指導を得て、ケースの想定、シミュレーションを定期的にも実施し、実践力の向上につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の指導のもと、地域の方にも参加して頂き、定期的に地震、火災を想定した避難訓練を実施している。いざの時は、近隣住民の方の応援が不可欠であることの理解とお願いをし、救出方法、避難経路の確認を行っている。	年2回、避難訓練を行っている。地域の方にもお知らせをし、参加して頂いている。また、非常食を備蓄するなど災害時の対策も行っている。近々、助成金を利用し、2階から避難用の滑り台を設置する予定である。	防災への取り組みを多方面から考えられている。今後も地域との協力体制を構築し、地区全体の防災意識を高める役割を担ってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの気持ち、尊厳を大切に考え、プライバシーに配慮し、さりげないケアを心がけている。また、個人情報の守秘義務について共通理解のもと、責任ある取扱いと管理を徹底している。	特に排泄介助の際には、本人の切なさや申し訳ないという気持ちに配慮し、大きな声で言うのではなく、さりげなく声かけをするよう努めている。言葉遣いは家庭的雰囲気を保ち、過剰に敬語を使わず、利用者を尊重した丁寧さを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんに合わせた声かけ、問いかけを行い、言葉以外の表情からも真意がくみ取れるように日頃から、話しやすい雰囲気作りや寄り添いを大切に、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、時間を区切るようなパターン化した過ごし方はせず、その日の個々の体調やペースを中心に、声かけし見守りながら個別的に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や入浴時の衣服は、基本的にご本人の意向だが、困難な方にも、選択肢の中から選びやすいよう支援している。また、行事、外出の際に、お化粧品やアクセサリーなどでおしゃれを楽しめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜、もらい物の野菜を食卓に並べ、季節感を取り入れたり、食事の出来上がる過程の中で、匂い、音を楽しみ、メニュー表で確認して頂いている。また入居者さんと職員が、一緒に食べる事ができる家庭的な雰囲気を大切にしている。	業者に食材の配達と献立を依頼している。調理は専門の職員が配置されている。メニュー表をフロアに掲示しており、職員と一緒に確認している。毎月の喫茶店では飲み物やケーキのメニュー表を作り、本人を選んで頂いたり、行事の時にラーメン屋さんを呼ぶ、おやつ作りをする等、楽しみ作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調や摂取量を把握し、記録に残している。食事量や形態も個別に対応し、食べやすく工夫している。高カロリー補助食品を主治医より処方して頂いている方もいるが、嗜好品なども組み入れ、メリハリのある食事を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方に個々に合わせた方法で、口腔ケアを促している。その際、口腔内のトラブルの有無についても、さりげなく確認している。また、口腔体操を日常的に行うことで、嚥下障害予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の生活リズム、排泄パターンを把握し、紙パンツを使用している方でも、日中は、布パンツ着用し、トイレで排泄できる支援を行っている。誘導時は、羞恥心にも配慮し、意思確認しながら支援している。	日中はできるだけ布パンツ+パットを使用し、トイレでの排泄ケアを行っている。トイレに行くために立ったり、座ったり、歩いたりすることが生活上のリハビリになるよう心掛けている。夜間ポータブルトイレを使用する場合、朝には回収し、日中に利用者が戸惑うことがないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操を日課とし、体を動かしたり、水分補給の重要性をスタッフ間に浸透させ、水分摂取を促したり、繊維質の野菜、果物をメニューに取り入れることで、スムーズに自然排便できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんのその日の体調や希望を伺い、共同決定できるよう声かけを行っている。誘導時は羞恥心に配慮し、拒否のある方には、Dr、ご家族に協力いただき、安心して入浴できるように、援助している。	基本的に週2回入浴できるよう支援している。入浴を拒否される方には入浴剤や好きな音楽など利用し、気分を変えて快適に入浴できるよう配慮している。また、入浴前には利用者が自分で衣類を選べるよう、職員が声をかけ、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごすことで、夜間の安眠につながるよう、生活のはり、リズムを整えるようにしている。夜間不眠があれば、原因を究明し、取り除くこと、温かい飲み物やおしゃべりでリラックスし安眠を導けるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さんの個別ファイルの中に、薬の情報を保管し、職員がいつでも詳細を確認できる。薬の変更時はさらに、症状の変化を観察し、見守り強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の中で、1人1人の能力や長所を發揮できたり、日常生活で「ありがとう」の感謝の言葉を多く言い合える場面作りをし、喜び、活気につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラス、庭など、短時間でも自由に屋外に出て、気分転換や外の空気に触れたり、季節感や自然を感じられるように、取り組んでいる。	天気の良い日に近所を散歩していると、名前を覚えてくれた近所の方が声をかけてくれ、井戸端会議のようにおしゃべりすることもある。また庭の畑やウッドデッキは開放されており、職員の見守りのもと、出たいときに自由に出入りする事ができる。毎週火、金曜日を買い物の日としており、利用者と一緒に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談の上、少額のお金を所持している方もおられる。ご本人の安心や、買い物後、お小遣い帳への記入のお手伝いをし、社会性の維持につなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	習慣のある方には、年賀状や季節の折々に手紙やはがきを出す支援を行っている。入居者さんの希望に応じて、電話での交流も継続できるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、匂い、採光など不快な刺激となっていないか？に気を配り、居心地の良い家庭的で季節感を取り入れた環境、生活空間の保持に努めている。	天井が高く、窓が大きく庭がすぐに見え、開放感がある。所々に温度計、湿度計が設置しており、換気や明るさなどいつでも快適に過ごせるよう注意している。利用者は日中、フロアの椅子やソファで過ごすことが多く、仲のいいもの同士で話をしたり、雑誌を眺めたりゆったりと時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、テラスに椅子があり、気分によって1人でくつろげたり、気の合う人同士で談笑できるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が安心し、落ち着いて過ごせるよう、新たに購入するのではなく、自宅でのなじみの品々やご家族の写真を置いて頂き、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	お布団や持ち物など本人が馴染みのあるものをできるだけ持って来て頂いている。畳での生活が慣れている方にはラグを敷き、床に座れるようにしたり、ソファやお化粧道具、自分の作品などそれぞれ個性のある部屋となっている。職員手作りの名札や暖簾があり、プライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何をどのようにサポートすれば、自立支援につながるのか？職員間で声かけや支援方法を検討し、共有することで、より良いケアを模索し、チームで関わっている。		